

パネルディスカッションにおけるトピック

2026.4.10

ファシリテーター 堀史郎

於)生物多様性保全、その動向と気候変動対策とのシナジー

二つ目のトピック: サプライチェーン

1. サプライチェーン:背景:生物多様性の対応:産業別のインパクト

産業別の生物多様性の影響度合いは、研究機関(Finance for Biodiversity Foundation, 下記左図)や評価機関(ロベコ、下記右図)などで示されている。

これによれば、食品、鉱物、エネルギー、商業、電力などの産業の影響が大きいことが示される。

⇒原材料調達におけるインパクト評価が重要

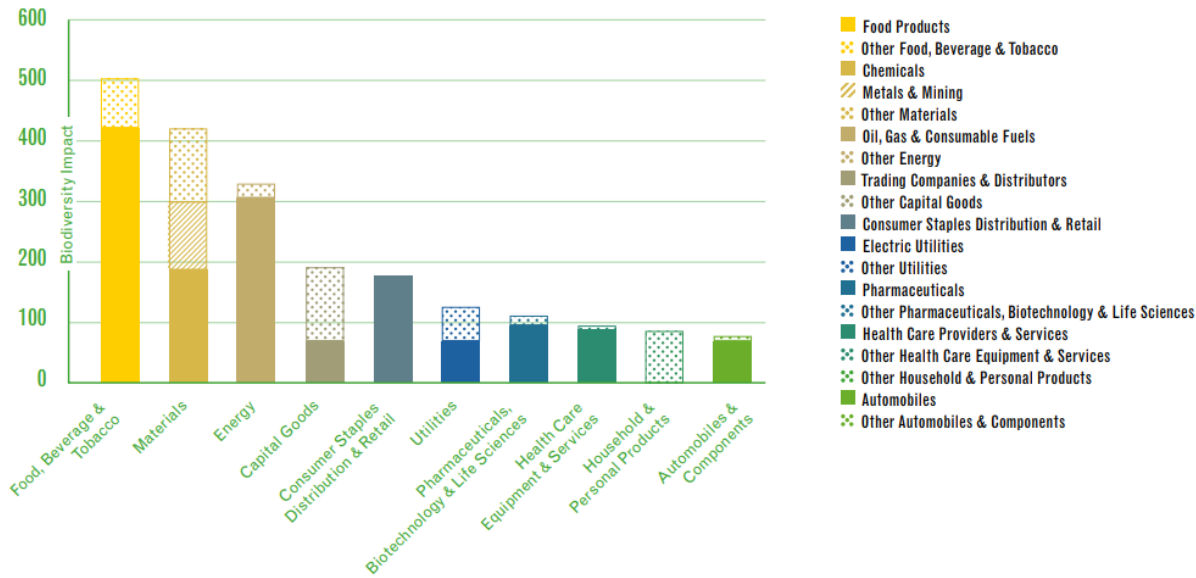
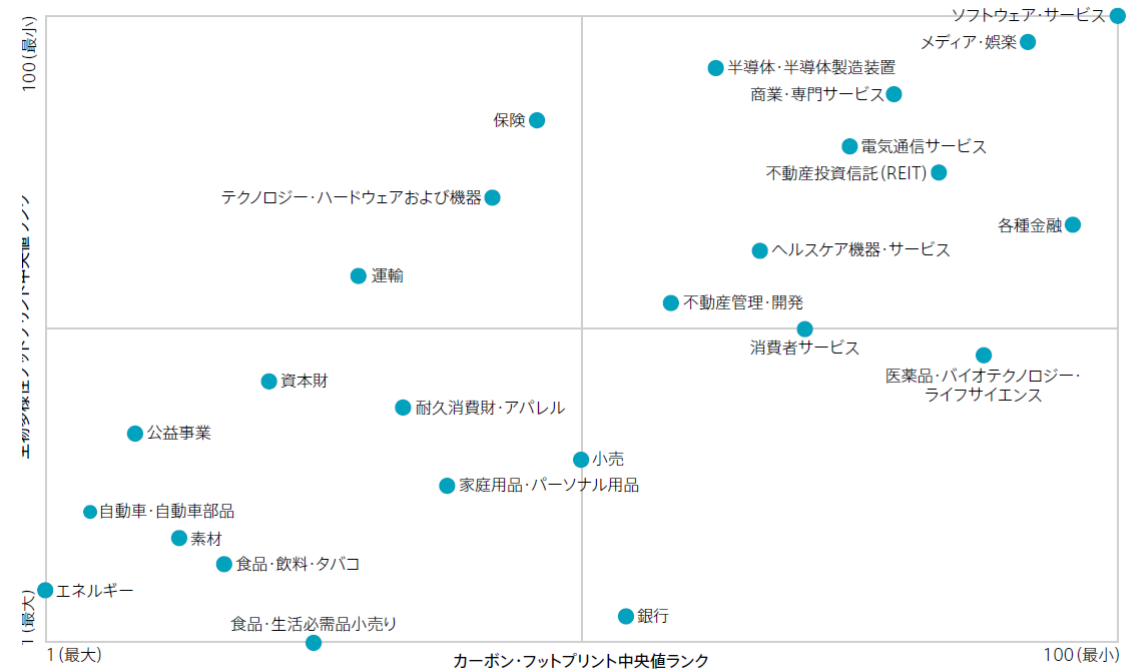
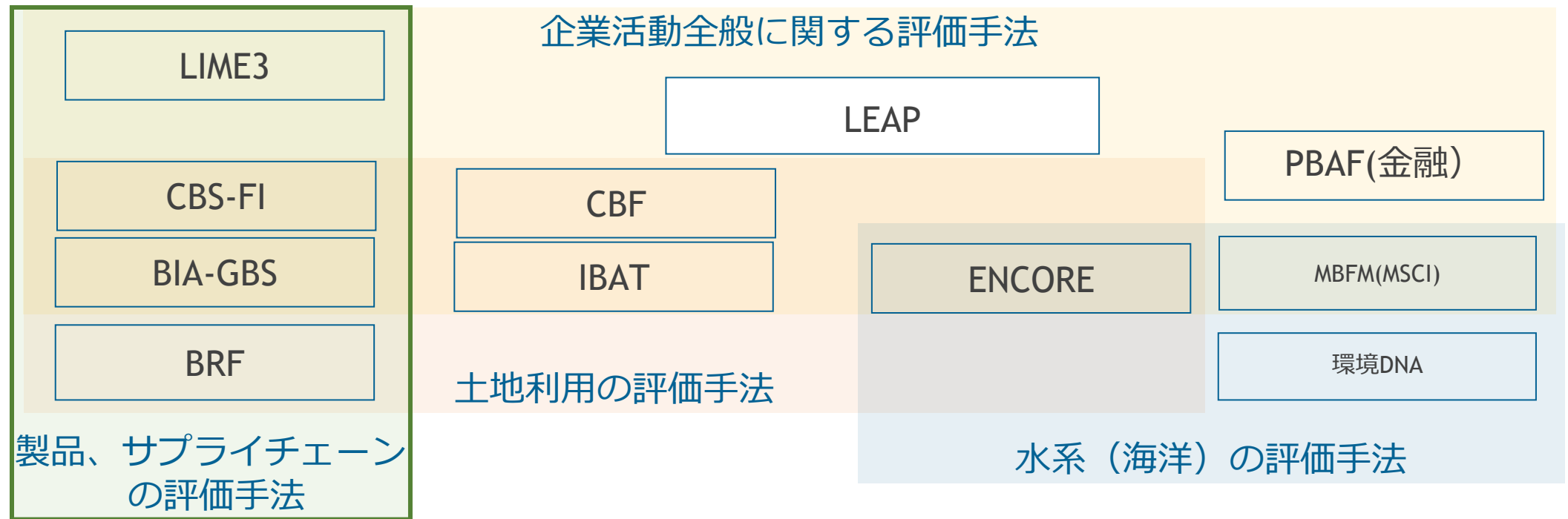


チャート | 生物多様性フットプリント中央値ランク 対 カーボン・フットプリント中央値ランク



1. サプライチェーン:背景:インパクト評価手法(例示)



- 生物多様性のサプライチェーン管理は、①実際に生産現場で確認する、②認証された原材料を購入する、③データベースにより評価する。などの方策がある。
- ③を行うためには、データベースと判定方法の両方が必要。
- 将来的な、サプライチェーン(気候変動でいうところのSCOPE3)への対応。
- ⇒影響が特定できない場合は、一般的ツール
- ⇒影響が特定できる場合は特化したツール

三つ目のトピック:今後のルール形成

2. 今後のルール形成:背景:生物多様性への対応:

The TNFD Recommendations
(2023)



ISO 17298「生物多様性:組織の
戦略および業務における生物多様性の
考慮」(2025)



(目的)企業や金融機関に対し、リスク管理および情報開示の枠組みを提供し、リスクの性質に関連する問題を特定、評価、対応、開示できるようにする。

TNFD (HP)より

ISO 17298は、TNFDの取り組み、特にLEAPアプローチに基づいている。

これは、ISOが他の国際規格や報告フレームワークとの整合性を図るための継続的な取り組みを反映したものである。

これは、公共部門と民間部門の両方の企業において、生物多様性への配慮を組織戦略、業務、意思決定プロセスに組み込むことを支援するように設計されている。

TNFD (2025/11)より

⇒企業活動における生物多様性のインパクトとその対応をどのように具体的に進めるか。
金融は、そのような活動をどのように促進できるか。

2. 今後のルール形成:背景:生物多様性への対応:

問題意識:生物多様性の評価方法が乱立し、生物多様性の企業戦略策定の障害となっている

- 欧州を中心に自然資本市場が創出、生物多様性の価値を定量的かつ俯瞰的に評価する方法が求められる。
- 評価の対象が何かによってもその方法は異なる。

✓ 国際的なルールに必要なこと

✓ グローバルに適用可能

- ✓ グローバルな基準となっていること。他方、評価は、地域の自然条件等によって異なる。それらを加味した評価判定法が必要である。

ISO、NPなど

✓ 判定基準が客観性(実際の自然の状態を表す)

- ✓ 評価方法が、適切に実態の自然状況と整合的でなければならない。また評価の方法が統計的に優位でデータのアクセスが保証されているなどの客観性が必要である。

ISO
,NP

✓ モニタリングが可能

- ✓ 自然の状態は時間とともに、変化、遷移していく(動的変化)ことが予想されるため、適切なモニタリングが、当該評価方法を使って簡易にできることが必要である。

ISO
,UNEPなど

2. 今後のルール形成:現在行われている取組:生物多様性の評価(例示)

ISOにおける、生物多様性の測定方法やモニタリングの議論

ISO/TC331/WG2において、”Guidelines on Measurement, Data, Monitoring, and Assessment ”の開発に向けた動き

(SCOPE)本活動は、陸生・水生を問わずあらゆる生態系を対象とし、生物学的レベルおよび遺伝学的レベルにおいて、生物多様性管理の有効性を向上させ、指標間の強化およびギャップの解消を図るとともに、環境影響評価、ライフサイクルアセスメント、および報告を含む総合的な評価のためのベースラインを確立することを目的とする。

ISO/TC 331 N 155より

ネイチャー・プロトコル:NPI(ネイチャー・プロトコル・イニシアティブ)とWBCSDが策定中

民間企業や金融機関の間で、意思決定に役立つ自然関連データや測定方法に対するニーズと需要が高まっている。ネイチャー・ポジティブ・イニシアティブ(NPI)、持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)、は、この共同作業の開発を主導する。

企業や金融機関が自然への依存関係や影響に関して使用できる指標を特定する上で、測定方法に関する合意の欠如が、明確性、信頼性、採用、そして最も重要な行動に影響を与えている。

この課題の様々な側面に取り組む既存のイニシアチブは数多くありますが、共通の参照プロトコルは存在しない。炭素会計の分野では、温室効果ガス(GHG)プロトコル(WBCSDとWRIが開発・管理)の貢献を基盤。

自然プロトコルは、環境に良い成果をもたらすための新たな資金調達を促進する上で、非常に重要なツール。

この自然プロトコルは、標準化された方法論とツールを提供し、サイトレベルのデータを国および世界の目標に結び付け、自然、炭素、財務会計の基準を統合する。

NPI (2025/11/11) ニュースリリースより

2. 今後のルール形成: 背景: 生物多様性の評価: NPIの事例

High-level output: Indicator framework

Indicators are defined as: "A quantitative or qualitative factor or variable that provides a simple and reliable means to measure performance. An indicator can be measured through one or multiple metrics" (as adopted by [TNFD](#)).

